

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470500675		
法人名	有限会社 介護センター田中		
事業所名	グループホーム渚園		
所在地	津市柳山津興382-4		
自己評価作成日	平成26年10月 3日	評価結果市町提出日	平成26年12月

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470500675-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26 年 10 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎朝、職員と一緒に掃除、洗濯を行い、料理作りにも参加する。このように各自が役割を持つ事で、自信を取り戻し、メリハリのある生活リズムをつくり、毎日が張りあいのあるものにしていただけるよう、サポートしている。
出来る事はしていただき、出来ない事はお手伝いさせていただくという様に、一人一人のペースや思い、考えを大切にしながら支援することを心がけている。
食事はすべて園内で手作りをし、季節感を大切にしたり、温かいものは温かく、冷たいものは冷たく食べていただけるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺は昔からの町並みで、近くにスーパーや飲食店があり、海岸沿いには散歩コースの津ヨットハーバーや交通公園がある。地域住民と交流する機会も多く、恵まれた生活環境の中で暮らしている。渚園だよりを発行して家族に送付し、事業所での利用者の生活や行事内容を報告している。面会時に家族と話をしたり、電話やメールでの対応があったり、毎年、利用者・家族・職員で一泊旅行を行う等、家族との関わりを大切にしている。管理者・職員は、家庭的な雰囲気のある生活の場づくりを目指して、利用者の目線で支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で「自分らしく暮らす」を理念とし、利用者主体を心がけ、実践している。	管理者・職員は理念を共有しながら、利用者目線での関わりを重視し、ケアや支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会、自治会の行事に参加したり、地域の中学生の職場体験等で触れ合いを行っている。	自治会に加入し、地域の行事や津まつりにも参加している。また、地域の保育園児との交流や中学生の福祉体験学習の受け入れをしたり、自治会からの依頼で地域での認知症の講演会を実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に頼まれて、認知症についての講演をしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、自治会役員、家族会代表、に来て頂き、会議での意見は職員へ伝え、サービス向上に活かしている。	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、事業所の近況報告や取り組み、自治会からの報告、行政からの報告、家族からの意見や提案を話し合い、事業所の運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、事業所の取り組みを理解してもらっている。	運営推進会議の開催時や市役所・地域包括支援センター訪問時に、担当者との相談や情報交換等を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしてはいけない事を職員はよく理解しており、日頃から世間での出来事についても話し合っている。玄関の錠はかけていない。	常に身体拘束や言葉による拘束についての研修や話し合いの場を持っている。玄関の施錠はしておらず、利用者や家族がいつでも気軽に出入り出来るようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、身体拘束をしてはいけない事を理解しており、ミーティング時にも話し合いをしている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度についての研修を受け、入居者の権利擁護を守っている。地域の相談にも活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定等の際は、入居者や家族の方が理解、十分理解納得して頂ける様、説明し、その後も気軽に質問ができる様な体制をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、ケース会議等に参加頂いたり、電話対応等で、いつでも家族が意見、要望を出せる体制を整えて実行できるよう努めている。	渚園だよりを毎月送付し、事業所での利用者の状況等を理解してもらったり、面会時等に家族の意見を聞くようにしている。また、電話やメールで意見や要望を伝えて来る家族もあり、家族からの意見や要望は職員間で共有し、事業所の運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時だけでなく、常に意見や提案を聞いたり、話し合ったりしている。	管理者は、常に意見や提案が言いやすく話やすい環境づくりに心掛けている。また、職員会議に意見・提案等をレジュメで提出するようにしており、職員の意見・要望を事業所の運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個々の努力や実績、勤務状況を把握し、職場環境、条件等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の実施や、法人内外の研修を受ける機会を作り、働きながら各々が向上していけるよう、進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着型サービス協議会に加盟しており、研修、勉強会に参加するなどして、同業者と交流、意見を交わし、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人に来園していただき、要望や思い、困っている事、不安な事などを伺い、安心を確保できるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族に来園して頂き、今まで頑張ってきた事、困っている事、不安事、要望等を伺い、信頼関係ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話をよく聞き、適切な支援を見極め、よりよいサービス利用ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人に敬意をもって接し、暮らしを共にする同士の良好な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人にとって家族がかけがえのない存在である事を充分理解しており、家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで大切にしてきた馴染みの関係が途絶えないよう、面会に来てもらいやすい環境を作っている。かかりつけ医、美容院へ行く等の支援を行っている。	家族が面会に来やすい事業所であり、家族と外食をしたり、墓参りに行っている。また、職員が従来からのかかりつけ医や馴染みの美容院へ行く等の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常日頃から入居者同士の関係をよく観察し、孤立する人がいないように配慮している。入居者同士を大切にし、争いごとがあっても、職員が介入しすぎず修復に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙をもらったりして、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃から、本人、家族から思いや要望を伺い、意向の把握に努めている。困難な場合、会話、言葉かけの工夫で本人の希望を把握している。	利用者との会話・表情から、一人ひとりの思いや意向を把握し、利用者良いこと発掘調査票に記入して職員間で情報の共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、親戚、友人等、馴染みの方から話を伺い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりによく目を配り、日々変わる体調、心身状況を把握するように努め、本人が出来る事はなるべくして頂き、出来ない時は出来るように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者の意見を伺い、ケース会議において検討。ケアプランを作成につなげている。	月1回の定例会で職員が記入した、良いこと発掘調査票を参考に利用者の状況把握に努め、家族から面会時や家族会開催時に意見や要望を聞いている。毎月モニタリングを実施し、3か月に1回介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践、結果、気づいた事などを個別に記録し、職員間で情報を共有して、ケアや見直しにつなげている。特に重要なことは特記事項に記している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じ事業所のデイサービスに遊びに行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの人と会ったり、美容室へ出かけたり、一緒に買い物に出かけたりして、豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの人が訪問医の往診を受けているが、馴染みの医師などにかかっている人は、一緒に受診している。	2名の協力医から月2回ずつの往診を受けている。従来からのかかりつけ医の利用者は2名いるが、協力医が往診している。2名の協力医と連携を取りながら受診の支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から本人の体調を把握し、職場内の看護職、かかりつけ医、看護師に報告、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、本人の情報を提供し、病院関係者との情報交換や、相談をしている。また、そうした場合に備えて、病院関係者との良好な関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明で、重度化した場合の支援について本人、家族と話し合いをしている。実際に起こった時は、家族、職員間で十分に話し合いをし、共に支援に取り組んでいる。	入居時に、重度化した時の支援について説明をしている。重度化した場合は、協力医・利用者家族・事業所で協議し支援内容を決めている。今年度3名の利用者の看取を行った。	利用者の重度化や終末期の看取りについては今後の課題です。事業所として看取りについて他の事業所の取り組みを参考に職員間で話し合い、終末期ケアや看取りについての体制づくりをして欲しい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊員から応急手当を習い、職員間でも緊急時に対して、話し合い、実践力を身につけるよう、心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災避難訓練を実施しており、方法や避難経路について、常日頃から職員間で話し合いを行い、安全に効率よく避難できるように考えている。また、地域との協力体制も築いている。	防災訓練を年2回実施している。昼夜を問わずいつ起こるかかわからない災害に備え、避難方法や避難経路を職員で話し合い、避難誘導訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	実践の場において、言葉遣いに注意し、特にトイレ、お風呂等では羞恥心に配慮して、人格やプライバシーを損ねないようにしている。	常に利用者の立場で接し、声掛けや対応に気をつけている。入浴時やトイレでの声掛けや見守りを重視している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から本人とコミュニケーションをとり、信頼関係を築くことによって、本人が気軽に思いや要望を表したり、自己決定ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしている。希望に添えない場合は、必ず説明をし、理解してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるようお話を聞いたりしながら支援している。特に、髪の手入れに気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望をメニューに反映したり、買い物と一緒にいたり、準備、片付けをしてもらう等、その方の能力に応じて行ってもらっている。	利用者の希望を取り入れ、メニューを作成している。利用者と職員が交替で食材の購入に行ったり、調理・配膳・下膳等を利用者が手伝っている。職員も利用者と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食栄養バランスを考えて食事を手作りしている。一人ひとりの状態や、食べる量を把握し、職員間で情報を共有し、個々にあった支援をしている。水分摂取が少ない人には記録し、確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の力に応じて、自発的に口腔ケアをして頂けるよう努めている。難しい人には手助けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄シートにより排泄パターンを把握し、「排泄はトイレで」を基本に、出来る限りトイレでの排泄に取り組んでいる。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導により、トイレで排泄が出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い野菜やヨーグルトを食べることで、便秘の解消に努めている。それでも解消できない時は、主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日はおおむね決まっているが、毎日でも希望により入浴できるシステムとなっている。お風呂が気持ちよく楽しいものになるよう、ゆったりと入ってもらえるように心がけている。	順番を決めて入浴をしている。利用者の体調や希望に添える様に毎日入浴できる体制を取っている。菖蒲湯やゆず湯を取り入れ、入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣、体力、日々の状況をよく把握し、安心して気持ちよく眠れるよう、支援している。日中の活動量を増し、メリハリのある生活習慣を作り、昼夜逆転のないよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬を把握し、服薬支援をしている。また、かかりつけの薬局とも情報を共有している。職員間でもわかるように薬の表や飲む時のチェックシートなどに書き入れしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のしたいこと、出来る事はやってもらい、お茶や生花、ヨガを月一回、先生に来てもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は近くの海岸まで散歩をしたりしている。毎年、入居者と家族、職員とで一泊旅行に出かけている。お墓参り、買い物等、家族と行ってもらっている。	毎年利用者と家族・職員で、利用者に希望を聞いて一泊旅行に出かけており、今年は鳥羽に行く予定である。普段は津ヨットハーバーや近くの公園までの散歩を楽しんでいる。また、家族の協力でお墓参りや買い物等にも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に応じて、家族と相談しながら、お金を所持したり、使えるように支援している。人によってはレジにてお金を払ってもらったりもする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも自由に電話や手紙のやり取りができる。自分で電話をかけられる人にはかけてもらい、自分でかけられない人は、職員がかけて、手渡しする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2ユニットを自由に行き来でき、近所付きあいを構築している。毎朝一緒に掃除をし、清潔を保っている。季節の花を生けたり、工作をしたりして、季節感を取り入れ、居心地よく過ごせるように工夫している。	玄関のすぐ横にある畳の居間はとても居心地が良いスペースになっている。季節の花が生けてあったり、利用者の作品や行事の写真が掲示してあり、くつろぎやすい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や玄関にテーブルや椅子を置き、居場所を作っている。テレビの前にはソファを置き、気の合った入居者同士で、思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、馴染みの調度品や家族の写真等で部屋を飾り、居心地良い居室づくりに努めている。夏場は居室入口にのれんをかけ、季節感を演出するとともに、プライバシーを守っている。	利用者が希望するタンスや椅子等が置かれている。家族の写真や利用者の作品等が飾られており、清潔で整理整頓され居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」を把握し、居室に名前、目印、写真をつけるなどして、自立した生活が送れるよう、工夫している。		